

【臨床・研究】

非都市部でのドクターヘリによる施設間搬送症例 の意義と問題点：適切な救急要請の普及の重要性

もり わき よし ひろ おく だ じゅん ぞう にわ の とし ゆき
森 脇 義 弘 奥 田 淳 三 庭 野 稔 之
さわ だ よし ゆき おお たに じゅん
澤 田 芳 行 大 谷 順

キーワード：救急要請，ドクターヘリ，施設間搬送（病院間搬送，2次搬送，間接搬送），
非人口密集地，過疎・準過疎地

要 旨

島根県ドクターヘリで当院から施設間搬送された12例について施設間搬送元施設側の資料から，当院への来院経過と高次施設への転院過程を調査した。ドクターヘリ施設間搬送例中当院への救急車搬送例（Amb例）と当院へ救急車以外の手段での来院例（非Amb例）は共に6例（50%）で，転院理由は全例で緊急度が高く当院で根本治療困難な病態であった。非Amb例の4例（67%）は通常内科外来受診例であったが危険な症状がみられた。Amb例中5例は救急隊接触時JCS 0~1の呼吸循環安定例で，現ドクターヘリ要請要件を満たしていない。全例24km離れた基地病院へ搬送され，非Amb群の消防署から現場までは全例5km以上で平均9.8km，当院までは平均7.7km，4例で5km以下であった。施設間搬送例の非Amb例を直接搬送とするには，市民への躊躇ない救急要請の啓発，医療相談など救急車不出場時のセーフティネットと救急要請しない場合のバックアップシステムの構築が重要と思われた。

はじめに

近年回転翼航空機（ヘリコプター）による患者搬送が定着してきた。地域消防機関の防災ヘリコプターと並んで，厚生労働省と各県の補助事業として運営されてきた救急医療ヘリコプター（以下，

ドクターヘリ）の迅速性，安全性，有用性も明らかにされている^{1,2)}。ドクターヘリは現場からの要請に応じての出動（現場出動）に最大の効果を発揮する。実際には，施設間搬送（間接搬送，二次搬送）も少なくないが，施設間搬送は注目度が低くその実態には不明な点も多い³⁻⁶⁾。今回，非都市部でのドクターヘリによる施設間搬送の詳細を搬送元施設の視点から検討したので報告する。

Yoshihiro MORIWAKI et al.

雲南市立病院外科

連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1